

人権なら

2016年8月1日

第68号

NPO なら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

9月3日に研究集会

田原本青垣生涯学習センターで開催

第8回奈良県「差別と人権」研究集会の開催に向けた第1回実行委員会が7月12日、田原本町青垣生涯学習センターであった。関係者が出席。開催要綱、協賛団体、任務分担などを確認した。

植村照子・理事長は「ことしの研究集会は依存症問題と、昨年に

続き、子どもの貧困を柱に討議をしたいと考えている。ご協力をお願いしたい」とあいさつした=写真。



香川明英・専務理事が昨年の第7回研究集会の概要を説明し、同研究集会のまとめを全体で確認した。

続いて、第8回研究集会の日程や、開催要項を提案。開催は9月3日午前9時半から、田原本町にある田原本青垣生涯学習センターで開く。記念講演は社団法人GARDEN理事長の矢澤祐史さんに依頼する、とした。

記念講演は矢澤祐史・GARDEN理事長に

矢澤さんは依存症の克服に関わって自助グループづくりや、アメリカで実践されている依存症克服プログラムを取り入れた活動をしている。元プロ野球選手の清原和博被告をはじめ、芸能人らの薬物事件が後を絶たず、社会的関心を集めているこの機会を捉え、「依存症は回復できる。奈良から全国へ発信11年！」の演題で講演をしていただく。

分散会は、第1分散会が「子どもの貧困にこだわり、

地域の社会資源と結びつけて支援のあり方を探ろう！」をテーマに議論を深める。第2分散会は「依存症は正しく治療すれば回復できる。身近な人の理解と支援が！」をテーマに、第4回研究集会に続いて、依存症問題を取り上げる。この2つの分散会での活発な議論を通して、やさしさとぬくもりのある地域社会づくりをめざしていくことにする。

依存症と子どもの貧困について討議

実行委員会の役員には、委員長にNPO法人なら人権情報センターの植村照子・理事長、事務局長に同センターの香川明英・専務理事を選んだ。

関係市町村の参加予定人数を確認したほか、全体会・分散会の受付や会場係・駐車場係などの任務分担などは、次回実行委員会最終確認するとした。

第8回奈良県「差別と人権」研究集会

◆9月3日(土)午前9時半～午後4時35分

◆田原本町・田原本青垣生涯学習センター

◆テーマ 激動する世界と日本。いまわしい差別と不当な人権侵害に異議申し立てし、より賢く、より強く、よりやさしく、自らが変わっていこう！

◆記念講演 矢澤祐史・社団法人GARDEN理事長「依存症は回復できる。奈良から全国へ発信11年！」

◆分散会 ①「子どもの貧困にこだわり、地域の社会資源と結びつけて支援のあり方を探ろう！」②「依存症は正しく治療すれば回復できる。身近な人の理解と支援が！」

◆参加費 3500円

地域の姿が生き生きと

第2回県民歴史講座で天理をフィールドワーク

同和問題関係史料センターの第2回県民歴史講座が7月5日にあった。「大和神社の祭礼と宮郷」「陵墓の治定と古墳の利用」をテーマに天理市内をフィールドワーク。同センターの清水有紀さんが案内した。

この日、歩いたコースはJR



長柄駅—大和神社—淳名城入姫神社—五智堂—中山大塚古墳—長岳寺—柳本郷墓—崇神天皇陵—専行院—新池—黒塚古墳・柳本陣屋跡。

この地域には、古代の幹線道路だった上ツ道が山の辺の道に沿って南北に延びている。平安時代以降は長谷寺参詣や伊勢詣での人たちで賑わった。大和神社(写真)は毎年4月1日に行われる祭礼「ちゃんちゃん祭り」で知られる。祭礼は大和神社の宮郷(大和濠)が執り行う。江戸時代には長柄・三昧田・佐保庄・萱生・兵庫・新泉・成願寺・岸田・中山の周辺9村が、現在もこの9大字が氏子域となっている。

祭礼「ちゃんちゃん祭り」で知られる大和神社

祭礼では各大字がそれぞれの役割を担う。本社やお旅所での神事や、お渡りでの持ち物の担当が決められている。渡御(とぎょ)の際、「梅の枝」(梅ズワエ)・太鼓を持つ大字と、龍頭(龍の口)を持つ大字は、開始前、境内の出店を回り、祝儀(芝銭)を徴収する。

本社やお旅所では、農耕所作の「翁舞」や男児2人による「龍の口舞」が行われ、降雨と豊穰を願う。「芝銭」の徴収は、本来「草場」を持っていた「穢多村」、すなわち、被差別部落の人たちの權益(芝銭・櫓銭、芝居や相撲興行などの収益の一部、斃牛馬の取得など)に関わる。しかし、この地域(宮郷)には被差別部落はないとのこと。興味深い疑問が残った。

淳名城入姫神社—上ツ道から長岳寺参道へ向かう所に立つ五智堂は「傘堂」「真面堂(まめんどう)」とも呼ばれる。建物は1本の太い柱で支える構造で、鎌倉末期(国・重文)のものという。

長岳寺は真言宗・空海が開いたという。大和神社の神宮寺でもあったとされる。ちゃんちゃん祭りの渡御にも参加していた。竜王山への登山口になっている。

今日の天皇陵を比定する基礎が作られた

柳本郷墓(写真)は「大和三昧聖明細帳」によると、幕末、周辺10ヵ村の郷墓で行基の開創とされる。「行基供養塔」は文化元年(1804)の行基1050年忌の際に建立。この辺りには三昧聖が住んでいたという。

崇神天皇陵—専行院—黒塚古墳・柳本陣屋跡。現在の天皇陵は「幕末から明治期にかけて古墳が陵墓として決定・管理され

て以降の姿」だという。近世の村落では、古墳は耕作地や山林となっていた。あるいは神社・寺院の境内とな



って、雨乞い祈願が行われる場所だった。古墳の周濠から引水して、農業用水として利用されていた。

崇神天皇陵(行燈山古墳)は柳本古墳群を代表する前方後円墳。文久3年(1863)から慶応元年(1865)にかけて、大和・山城・摂津・河内・和泉の五畿内を中心に「文久の修復」事業が実施される。この修陵によって、今日の天皇陵の比定や、立ち入り禁止を原則とする管理のあり方の基本が成立。今日の天皇陵の基礎がつくられたという。「政治権力の肥大化とともに作られた物語」の虚しさ、その先の史実の歪みが頭をよぎった。

専行院(柳本)は江戸時代、柳本藩主織田氏の菩提寺で歴代藩主の墓所。黒塚古墳・柳本陣屋跡は江戸時代の陣屋で、古墳の丘陵や周濠の一部が利用された。建物の一部は1965年まで小学校として使用。現在は榎原神宮の境内に移築されている重文だ。

西成「こどもの里」を訪問

「ひまわりの家」が釜ヶ崎をフィールドワーク

「ひまわりの家」が6月24日、大阪・西成「釜ヶ崎」をフィールドワークした。社団法人「eight」の藤本貴久さんとJR新今宮駅で合流し、



宿泊先のNPO法人こえとことばとこころの部屋「ココルーム」に。庭にはカフェテラスがあった＝写真。

ココルームは釜ヶ崎芸術大学やまちかど保健室など、いろんな活動に取り組んでいる。この日も「英会話教室」が開かれていた。コンセプトは「地域に根差した表現と社会の関わり」。とても面白い空間だ。

このあと、南公園(三角公園)－釜ヶ崎支援機構－萩乃茶屋小学校－西成労働福祉センターこどもの里－ふるさとの家－飛田新地(大門)－ジャンジャン横丁－新世界を歩いた。

「ふるさとの家」では、本田哲郎神父が留守で会えなかった。かつて部落解放同盟奈良県連青年部で釜ヶ崎の越冬支援に関わったとき、話に來てもらった。「野宿」支援の夜回りなど、釜ヶ崎でのいろんな記憶が甦った。



子どもたちが安心して通える場所づくり

「こどもの里」では、NPO法人理事長の庄保共子(しょうほともこ)さん(写真)に話を伺った。釜ヶ崎は日雇労働者の男性が多く、父子家庭の子どもも多いという。「こどもの里」は、いろんな環境の中で傷ついている子どもたちが安心して通える場所としてある。大事な信念が2つ。1つは、こどもの最善の利益を考えること(安心)。もう1つは、こどもの自尊心を守り育てること(自



信、自由)だ。この信念を実現するため、医療機関や学校、児相、警察などの関係機関とネットワークを構築している。「別に大きなことを考えて今の形を作ったのではない。目の前の子どもの最善の利益を考えてきたら、結果的にこういうことになった」と言う。庄保さんの話に藤本さんらは大いに共感した。

飛田新地の大門に寄り、ジャンジャン横丁を通り抜け、新世界へ。この辺りも景色は様変わり。4軒ほどあった将棋の店は1つだけに。将棋クラブ「王将」も串カツ店に。「びっくり善哉」の店もなくなっていた。界限を歩いていて、外国からの観光客や若い人たちが多くことに驚いた。



夜は、ライブも楽しめる立ち飲み居酒屋「難波屋」(写真)に。飲み、串カツを食べ、宿泊先へ戻った。



「こどもの里」の日常を追ったドキュメンタリー映画『さとにきたらええやん』が7月2日から大阪・十三にある第七藝術劇場で上映中。8月5日まで。

紙芝居の底力と哀史

鈴木常勝さんが「アジール空堀」で実演

「アジール空堀」と銘打ったイベントが月一回、大阪・空堀商店街の路地裏にある町家を改装したフレンチの店ビストロ「Galop」(ギャロ)で催されている。6月23日には、ちよんちゃんこと、鈴木常勝さんの「街頭紙芝居の奥は深いぞ」－紙芝居の底力とその哀史が企画され、鈴木さんの友人や、店の常連で満席となった＝写真。国策紙芝居の話のほか、大爆笑となった紙芝居「伊豆の踊子」ならぬ「いけずの踊子」や、おとな相手の紙芝居を楽しんだ。このあとのフランス料理も楽しめた。



「戦争をさせない」と行動

「命と暮らしを護るピースプロジェクト 戦争をさせないワーカーズ」が7月2日、参院選を前に改憲勢力に3分の2議席を取らせないため、「戦争をさせないためのラストチャンス」と題した集会を開いた＝写真。

ワーカーズは戦争をさせないという意味を持つ障害福祉事業所の職員が運営に関わる。様々な団体と共闘し、戦争法廃止の一点で活動している。



「自分だったら…」の視点が欠落している

集会では、廣瀬朋さんが沖縄の基地問題について語った。①沖縄で様々な人たちから戦争や基地の話聞く中で気づいたキーワードは「命」と「差別」②基地問題を考えるとき、「沖縄やから仕方ない…」と心のどこかで思っていないか。これを“障害”に置き換えるとどうか。私たちは「差別」だと抗うはずだ。無意識に無知なまま、差別観の上に立って基地問題を議論し

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

参院選が終わるや否や、安倍一強政権は沖縄・高江に全国から集めた機動隊を投入。ヘリパット工事を強行した。また、選挙中はアベノミクスの成果を自讃していたが、今年度の国内総生産成長率の見通しを1.7%から0.9%に下方修正。成長戦略の失敗が露わになった。こんなこともあってか、選挙後の世論調査では、選挙結果に不満を抱く人が満足する人を上回った。でも、政権はなりふり構わず強権的に突き進む感じだ。改憲に向けた動きも加速してくる。メディアを通した世論操作に騙されてはいけない。政権の狙いを注視したい。あとから気が付いても遅すぎるのだ。

でも上手くいかない。障害福祉も同様だ。「自分だったら…」の視点が欠落しているのだ③基地があることは「撃つ覚悟」はもちろん、「撃たれる覚悟」も必要だ。70年前、本土決戦の時間稼ぎとして“捨石”にされた沖縄では、多くの命が奪われた。にもかかわらず、その命を奪った基地があり続ける。命の尊厳を大切に、心から反省と謝罪をしているならば、沖縄に基地は造れない。ひとたび戦争が始まるとターゲットになる。沖縄を二度と戦地にしてはいけない、と語った。

喜多学志さんは、選挙戦で憲法改正について一切触れないアベ政権だが、そんな子どもだましに騙されない！平和憲法を壊すな！選挙に行こう！と述べた。途中、前川清成・候補が駆けつけ、アピールした。

ワーカーズはまた、7月4日に近鉄郡山駅、6日に近鉄天理駅、8日にJR王寺駅でピープルファースト奈良とともに、「戦争をさせないためのスタンディング行動」を展開。戦争反対！選挙へ行こう！と訴えた。

(戦争をさせないワーカーズ・廣田英行)

辺野古に行こうライブ

川口真由美・春間げんさんの「辺野古に行こう・ライブ」が6月22日、大阪・十三にある「風まかせ人まかせ」であった＝写真。川口さんは障がい者施設「あろあろ」代表や、No Base！沖縄とつながる京都の会共同代表も務める。辺野古に通い続ける川口さん。今年の沖縄平和行進で出会った。彼女の素敵な唄と演奏が楽しめた。



ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833
E-mail:info@nponara.or.jp
http://www.nponara.or.jp/